

♪♡ひととき コーナー♡♪

あかちゃん、ちびちゃんといっしょにあそびましょ!

(5本の指を折って開いて、手遊びです)

おやゆび ねむれ

さしゆびも

なかゆび

べにゆび

こゆび みな

ねんね しーな

ねんね しーな

ねんね しな

(体全体を使つての遊び)

ぎっこん ばっこん よいしょぶね

おーきな なーみが たーかいぞ!

(春をさがしにお散歩しましょ)

たんぽぽ たんぽぽ

むーこう やーまへ

とーんでけ!

『あかちゃんとお母さんのあそびうたえほん』

『こどもとお母さんのあそびうたえほん』

(小林衛己子編 大島妙子絵 のら書店)より

♡♡文庫あれこれ♡♡

◆先月、雪のなかを東京へ帰ったら、東京はいつさい雪の気配なし。でも今年は雪、降りましたねえ。文庫の庭にまだ残雪が。もう、春なのに～さむいですねえー。でも夕べは星月夜が美しかった! ですね。みなさんはいつもこんな澄んだ空を眺めてる。◆文庫が気軽に読めるという会員さんのことばで、古い蔵書を引っ張り出し、またいただき、だいぶ文庫が増えましたが、いかがでしょうか?近刊も少しづつ手に入れたいと考えています。◆ただ、書棚のスペースがだんだんなくなって。◆中西さんのエッセイを読んで暴走老人にならぬよう気をつけねばと思いつつ、わたしは、読みながら嗚咽がしばらくとまらなかつた文庫本があります。本の紹介でもリストアップしたのですが、乃南

アサさんの『しゃぼん玉』です。ぜひみなさんにお読みいただければと思います。私たちは、死ぬまで人と人の中で生かされているのだと、死ぬまで人の役にたてるのだと、人を受け入れるやさしさを持ち続けたいと思いました。◆さて、今年は5月のアートフェスティバルに参加します。1週間ですが。また、おはなし会や、展示会をやります。今年は、手作り絵本と、調べ学習コンテスト(NPO図書館の学校主催。全国規模)出品優秀作品の展示です。◆また、友の会でも何か企画してくれるようです。◆この機会にぜひ、親子で、家族で、夫婦で手作り絵本と、調べる楽しさに触れてください。◆先月号の書評を書いてくれた伊藤楓音ちゃんは1年生でした。、お詫びして訂正します。(西村)◆最後の仕上げに熱中してたら、いつの間にか外は雪でした。みんな、これるかなあ。(西村)

☆☆今後の開館スケジュール☆☆

◆3月は15(土)、16(日)の両日です。

◆4月は第2週の土日12日13日が開館日

◆文庫の時間:土曜日は午後2時~5時、

日曜日は午前10時~午後3時

◆毎月開館日の日曜には、子どものための小さなおはなし会があります。

午前10:30~11:00

◆文庫開館日は毎月、第3日曜とその前日の土曜日の2日です(従って第3土曜日でなく第2土曜日ということもあります)。

《楽しんで読み聞かせ・頑張っておはなし》
みんなで勉強会

★毎月、文庫の前日の金曜日午後2:00から。

★3月は14日(金)です。

★関心のある方はご連絡ください。

お願い

借りた本は次の月にお返しください。予約が入っていることもあります。都合で来館できないときは、ぜひご連絡ください。そのときに応じた返却方法を考えましょう。

沙羅の樹文庫だより

No.18

(2008年2月号)



河津桜

われは 草なり 高見 順・作
われは草なり 伸びんとす
伸びられるとき 伸びんとす
伸びられぬ日は 伸びぬなり
伸びられる日は 伸びるなり

われは草なり 緑なり
全身すべて 緑なり
毎年かわらず 緑なり
緑の己れに あきぬなり
われは草なり 緑なり
緑の深きを 願うなり

ああ 生きる日の 美しき
ああ 生きる日の 楽しさよ
われは草なり 生きんとす
草のいのちを 生きんとす

寒かった冬も終わって、もうすぐ緑の芽吹く春です!

つれづれに想うこと～本の世界を歩き来して

中西景子

昨年、西村さんの朗読「しずかな夫婦」で出会った詩人「天野忠さん」については続きがあって、詩集をお借りして読むことが出来、その後、エッセイ『木漏れ日拾い』（編集工房ノア 1988）も読むことが出来ました。

最近手紙を書かなくなったという「手紙のこと」や、昔の菓子箱にあった泰西名画のはなし（これは、私も父がよく買ってきてくれたケーキ屋さんのアマンドの包み紙やチョコレートの箱なんか大切にしまうほうだったので懐かしかった）にまつわる「本を読む人」や、荷風の日記によく出てくる「天晴」ということばをひいての散歩のはなしなど、しっとりと落ち着いた毎日のあれこれに共感できて楽しく読めました。年をとって、ゆっくりとしたペースで過ごす妻と二人の生活に、時々近所の坊やなどが顔を出し、大好きな「庄野潤三さん」や「佐伯一麦さん」の世界と共通の心豊かな毎日にひたれました。

そんなうっとりした本の次に、たまたま借りてあった『暴走老人』（藤原智美著 文藝春秋 2007）を手にとった私は、びっくり仰天、恐くなりました。ここでも、たとえば自治会の総会や会議などで、「わからんちん」を言うお年寄りが居ることは耳に入っていました。が、「そんなに怒らなくてもいいじゃない？」という場面で、大声で怒鳴り散らす老人が、とても増えているらしい。現代の時間の中で「待てない」、「ケータイ」や「パソコン」などの情報社会についていけない不安、などが原因として考えられるとしても、老人社会は昔とちがってきているらしい。これでは子どもたちがよく育つわけがない、心憂えるばかりです。

こんな田舎に住んでいると、何もかも無い無いづくしの中で、花が咲くのを待ち、鳥が来るのを待ち、ポストに手紙が落ちるのを待って暮らすのんびりの毎日ですが、ほんやりと海を眺める時間、風の色が変わってきたなと感じられるのは幸

せです。よく晴れた日に林を歩いていると、必ず、同じように外に出かけてきた人に会います。ゆったりと暮らす中では、怒る気持ちもおさめられるのでは?と、思っていますが。

新刊・新入庫の本

子どもの本

絵本

『あまいね、しょっぱいよ』（ふくだじゅんこ絵 グランママ社 2006）『おそうじのうた』（いまむらあしこ作 いちかわなつこ絵 グランママ社 2006）『はんしろうがないた』（せなけいこ作 グランママ社 1990）

読みもの

『こんどはだれをよぼうかな』（武鹿悦子作 瀬戸好子絵 アリス館 1993）
『ぶたのぶたじろうさん 3 はげやまへのぼりました』（内田麟太郎作 スズキコージ絵 クレヨンハウス 2006）
『わたしのちゃめウサギをさがして!』（岡田喜久子作 鈴木まもる絵 リプロポート 1991）
『ねこたちのまち』（わしおとしこ作 藤本四郎絵 アリス館 2001）
『ウォートンとモートンの大ひょうりゅう』『ウォートンとカラスのコンテスト』（エリクソン作 ディ・フィオリ絵 佐藤涼子訳 評論社 2007）
『ほんのちょっと、夜』（岡田喜久子作 南塚直子絵 リプロポート 1992）
『10分で読めるお話 4年生』（木暮正夫・岡信子選 学研 2005）『児童生徒に聞かせたいお笑い 1分間』（高嶋和男著 学陽書房 2001）
『花ヶ淵河童ばなし』（瀧澤よしこ作 長野ヒデ子絵 岩崎書店 1987）
『でておいでキムジナー』（すずきてるこ作 ユー・コスモス 1990）
『日本のむかし話 1』『日本の昔話 2』（松谷みよ子作 松谷春男絵 講談社 1981）

詩

『いま中学生とよみたい 101 の詩』（木坂涼・水内喜久雄編

民衆社 1994）『ことわざあそび』（瀬川康男作 グランママ社 1994）『詩にさそわれて 1』（水内喜久雄編 あゆみ出版 1995）

ノンフィクション

『さかな・食べるのだいすき!』（竹内昌昭・越智直実文 佐藤真紀子作 大日本図書 2001）
おとなの本

読み物

『そうか、もう君はいないのか』（城山三郎著 新潮社 2008）
『やさしいダンテ<神曲>』（阿刀田高著 角川書店 2008）

文庫を少し紹介

『日々平安』（山見と周五郎著 新潮社 2007 刷）

久しぶりの周五郎で、周平さんとまた違ったぬくもりが懐かしかった。

『しゃぼん玉』（乃南アサ著 新潮社 2008）

はじめての著者。自暴自棄になってかっぱらいをしながら日本各地を転々としていた若者が山深い村であったものは。

『天璋院篤姫 上下 新装版 講談社文庫』（宮尾登美子著 講談社 2007）

NHK 大河ドラマ放映中の原作

『異邦人 上下』（パトリシア・コーンウェル著 講談社 2007）

検屍官スカーペッタの最新作。数年前までは一気に読破したのですが・・・。

『われらの時代・男だけの世界』（ヘミングウェイ著 高見浩訳 新潮社 1995）

『世話焼き長屋』（池波正太郎ほか著 新潮社 2008）

『思考の整理学』（外山滋比古著 千曲書房 2007 刷）

寄贈本から 男の方へ

『ウォルマート 世界最強流通業の光と影』（日本経済新聞社）アメリカに住んでいた70年代中ごろこのスーパーはすごかった!です。

『残された山靴 佐瀬稔遺稿集』（山と溪谷者 1999）

『文明の衝突』（サミュエル・ハンチントン著 鈴木主税訳 集英社 1998）

『ヘッジファンド 世紀末の妖怪』（文春新書）

『三遊亭円朝の明治』（文春新書）